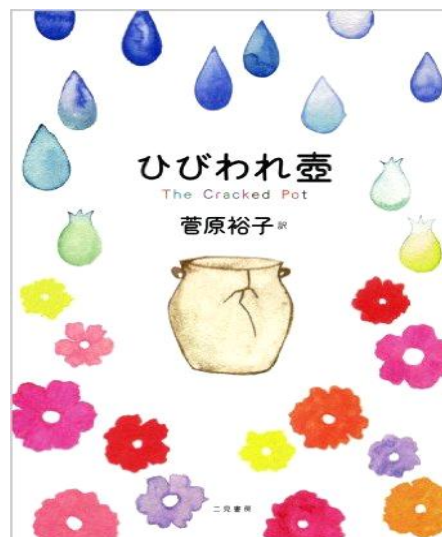


ふれあい旬間 : 校長講話

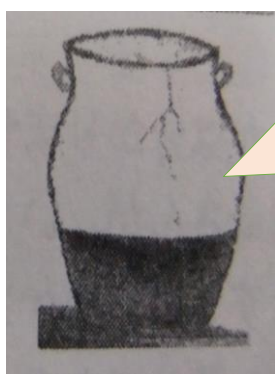
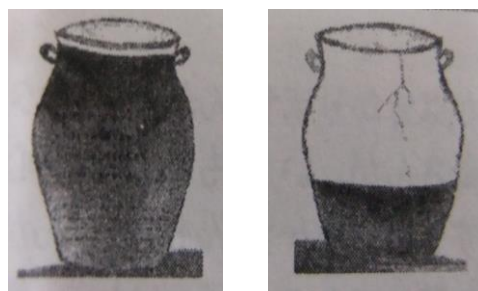
おはようございます。11月14日からふれあい旬間が始まりました。この旬間では、お友だちのところをよーく見て、お友だちの良さを見つけて、言っ上げて、その良さをたくさん認め合っていく、そんなことがたくさんできるといいなあとと思います。

今日は、（壺をみんなに見せて…）壺のお話をします。壺にはお水を入れて運びます。インドのお話です。「ひびわれ壺」
インドのある水くみの男は、2つの壺をもっていました。
天秤棒（てんびんぼう）の端にそれぞれの壺を下げ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、彼は水を運びます。



一つは完璧な壺です。もう一つの壺にはひびが入っていました。完璧な壺が、小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひびわれ壺は水くみの男が水をいっぱい入れてくれても、ご主人様の家に着く頃には半分になっているのです。

完璧な壺はいつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼が作られた本当の目的をいつも達成することができたから。ひびわれ壺はいつも自分を恥じていました。なぜなら、彼が作られた本当の目的を、半分しか達成することができなかったから。2年が過ぎ、すっかりみじめになっていたひびわれ壺は、ある日、川の畔で水くみの男に話しかけました。



わたしはぶんがはずかしい

そして、
あなたにすまんと
おまわっている

『わたしは自分が恥ずかしい。そしてあなたにすまないと思っている。』

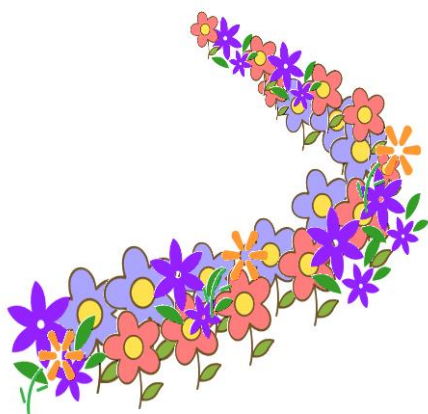
『なぜそんなふうに思うの？』

『何を恥じているの？』

『この2年間、私はこのひびのせいであなたのご主人の家まで水を半分しか運べなかった。水が漏れてしまうから、あなたがどんなに努力をしても、その努力が報われることはない。私はそれがつらいんだ。』と壺は言いました。

水くみの男は、ひびわれ壺の気持ちを知り、悲しくなりました。そして言いました。

『これからご主人様の家に帰る途中、道ばたに咲いているきれいな花を見てご覧！』



天秤棒にぶら下がれて丘を登って
いくとき、ひびわれ壺はお日さま
に照らされて美しく咲き誇る道ば
たの花に気づきました。花は本当
に美しく、壺はちょっと元気にな
った気がしました。…でも、ご主
人様の家に着く頃には、また水を
半分もらってしまった自分を恥じ
て、水くみの男に謝りました。



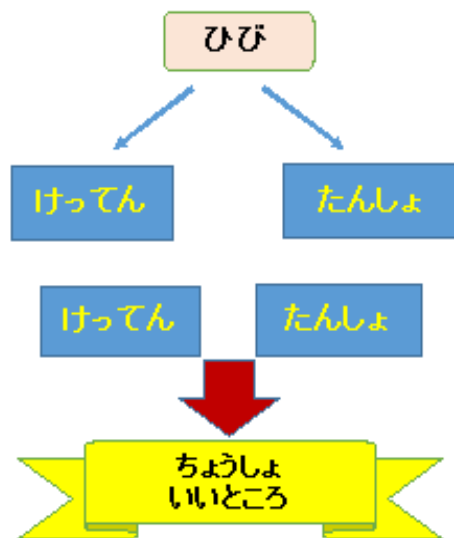
すると、彼は言ったのです。『道ばたの花に気づいたかい？ 花がきみの通る側にしか咲いていないことに気がついたかい？ ぼくはきみからこぼれ落ちる水に気づいて、きみが通る側に花の種をまいたんだ。そして、きみは毎日水をまいてくれた。この2年間、ぼくはご主人様の食卓に花を欠かしたことはなかったよ。きみがあるがままのきみじゃなかったら、ご主人様はこの美しい花で家を飾ることはできなかったんだよ。』

わたしたちは、
みんなひびわれを
もっています。



さて、私たちは、みんな、『ひびわれ』をもっています。ひびというのは、『短所』とか『欠点』という言葉で置き換えることができます。

「私の欠点は短気なところ」という人がいるかもしれませんが、それはものごとにテキパキと取り組めるといふ長所とも言えます。「私の短所はのんびり屋なところ」と言う人もいるかもしれませんが、それは、一つ一つのことをじっくり取り組んで着実に行動することができるという長所とも言えます。私たち、誰もがもっている欠点や短所は、長所にもなるのです。



だれでももっている「ひび」



「ひび」のよさをはっけんして、
お友だちのいのちをいかすなまになりましょう。

南小のみなさんも誰もがひびをもっています。
ひびのよさをはっけんして、お友だちのいのちをいかす仲間でありたいなあと思います。

今日のお話を終わります。